

磐田市AXビジョン2030

～DXの“今”をAIで“未来”にする～

令和8年（2026年）5月

1 磐田市を取り巻く環境変化

人口減少と少子高齢化の進行

2030年には約16万人、2065年には約11万人まで減少すると予測

市職員数の減少

労働人口の減少に伴い、人材獲得競争が激化

市民ニーズの多様化・複雑化

子育て支援、高齢者福祉、防災対策など、画一的なサービスでは対応しきれない状況

デジタル技術の飛躍的進展

AI技術の発展により、限られた資源で最大の成果を生み出すことが可能に

2 なぜ今、AXビジョンが必要なのか

「少数精鋭」から「少数×AI」へ

人口減少・職員減少という構造的課題に対し、AIを戦略的に活用することで、限られた資源を最大限に活かし、持続可能な行政運営を実現する

走り続けるDXが、AIという翼を得て飛躍する

DXを推進する過程で、AIの技術を効果的に活かし、市民サービスや行政業務を更に向上させていく

AIを活用し、共創に磨きをかける

市民・企業・地域団体・行政がAIを活用し共創をより深め、新しい価値を創造する

3 目指す姿（ビジョン）

AIと人が共創する、
誰もが安心して暮らせる魅力あるまち

- ① 職員がAIを、行政業務を支えるパートナーとして活かす。
- ② AIが市民の身近な存在になるように後押しする。
- ③ 磐田市に関わる人がAIと共創し、新たな価値を生み出す。



4 職員の活用

職員がAIを、行政業務を支えるパートナーとして活かす。

- **AIにできることはAIに任せる。**
※文書作成や情報整理、要約、定型的な下準備はAIに任せ、最終判断を職員が担う。
- **困りごとは、上司や同僚だけでなく、AIにも相談する。**
※考えを整理し選択肢を広げるため、AIを相談相手にしてみる。
- **AIの活用で工夫したことや課題点を庁内に横展開する。**
※自分だけでなく、みんなが活用できるよう情報共有する。

● 活用事例

- ・ AIによる業務報告書や議会答弁書の自動生成
- ・ AI活用による行政計画の作成支援
- ・ 審査業務における定型的な確認作業をAIが支援
- ・ AI活用による庁内問い合わせの自動対応化
- ・ 生成AIを活用し企画書作成時等のブレインストーミング
- ・ 生成AI勉強会の開催 など

5 市民サービスへの活用

AIが市民の身近な存在になるように後押しする。

- **日常的な市民サービスにAIを活用し、市民が身近に感じられる機会を増やす。**

※市民の利便性や使いやすさを重視しAIを市民サービスに活用する。

- **地域コミュニティにおけるAI活用の事例を共有し、関心を高める。**

※自治会の日常活動でAIを使う方法を紹介し、AI活用方法の理解を広げる。

- **市民がAIを知り試せる場をつくる。**

※年齢や経験を問わず、誰でも参加できる機会を提供する。

● 活用事例

- AIチャットボットを活用し24時間365日の問い合わせに対応
- 自治会等の関係者を対象にAI活用（書類作成、イベント企画のアイデア出し、住民アンケートの分析）の勉強会を開催
- スマートフォン教室、生成AI活用教室の開催 など

6 共創への活用

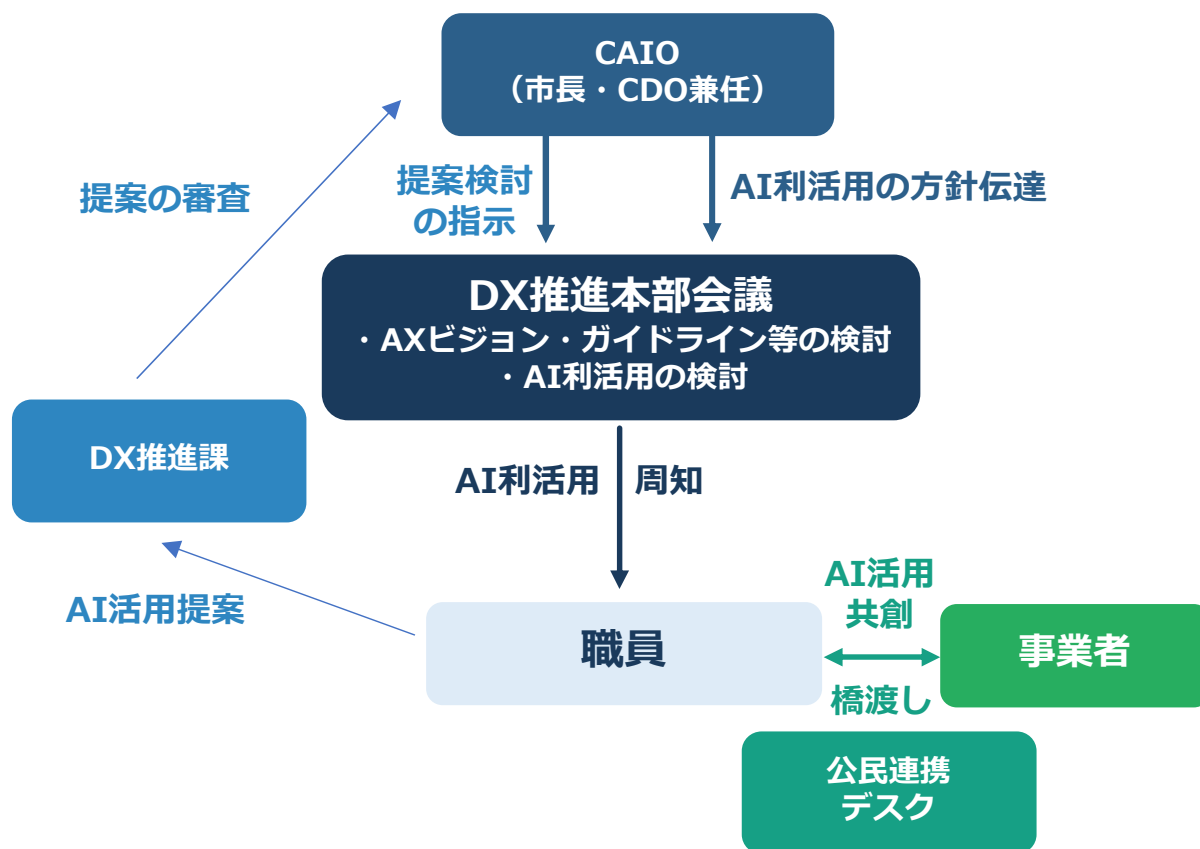
磐田市に関わる人がAIと共創し、新たな価値を生み出す。

- **AIを活用し対話内容を整理・可視化し、建設的な議論と合意形成を支援**
※対話内容の集約・整理・可視化や論点整理を通じ、多様な視点を踏まえた検討を後押しする
- **多様な主体によるAIの社会実装を推進**
※市民、企業、行政、教育機関が協働で社会課題にAIを実装するための実証実験を目指す
- **市内の既存資源とAIを掛け合わせ地域の強みや魅力の向上につなげる。**
※農業・商業・観光などの分野において、既存の取組にAIを活用する。

● 活用事例

- ・ オンラインプラットフォームの意見を生成AIで整理、新たな視点による議論を促す
- ・ 公民連携デスクを活用した、行政課題へのAI技術実証の推進
- ・ AIによる市内施設の3Dデータ化 など

7 推進体制



- ① 市長がCDO（最高デジタル責任者）と兼任でCAIO（最高AI責任者）に就任し、DX推進本部会議を通じてAI活用の指揮を執る。
- ② DX推進本部会議でAXビジョンや生成AIガイドライン等を検討し、職員にAIの適切な利活用を促す。
- ③ DX推進課が職員からAI活用の好事例や提案を募り、DX推進本部会議で検討の上、全職員に展開する。
- ④ 公民連携デスクが、市と事業者のAI共創の橋渡し役を担う。

磐田市AXビジョン2030

AIと人が共創する未来を、市民と共に実現していきます。

技術を活用しながらも、人と人とのつながりを大切にし、
誰もが安心して暮らせるまちづくりを推進します。

令和8年5月 磐田市